生きものたちと、みどりと水辺の豊かな大地

大田区

自然ふれあいマップ

— 春・夏編 —

春から夏の大田区では、チョウやトンボ、セミなど昆虫の成長の変化を身近に観察できます。また、多摩川の河口近くでは干潟に入って多くのカニなどの生きものを身近に観察できる絶好の季節です。カニといっても種類のちがいを見わけるだけではなく、目、ハサミ、巣穴などにも注意して観察してみると、その多様性に驚くはずです。

池のみち

この観察路は、昔から景勝地として「名所江戸百景」（広重画）や「東京市八名勝」（昭和7年選定）で有名な洗足池を中心にして、近くにある小池とともに景観にすぐれた散策路です。かつて水田かんがいに利用されていた名残が随所にみられます。みどりと水辺の空間では色彩豊かな花々に加えて、チョウやトンボが数多く見られ、生態系豊かな都会の中のオアシスになっています。

海と埋立地のみち

この観察路は、古来より遠浅で波静かな海面を高度経済成長に伴って埋め立てた臨海部にあります。近年の水質の改善により水際線に公園や緑道が整備されてきました。大田スタジアムに隣接するせせらぎの森から東京港野鳥公園、平和の森公園、大森ふるさとの浜辺公園、昭和島、京浜島、そして京浜運河、海老取川に沿った広い地域となっています。初夏の海風を感じながら、たまには普段より長い距離を歩いてみてはいかがでしょうか。

雑木林のみち

この観察路は、武蔵野台地特有の雑木林が残り、斜面には崖線の地形を有し、崖下には多くの場所で湧水が見られます。中原街道から鵜の木付近にはかつての六郷用水が人工の水路として復元され、田園調布せせらぎ公園内の湧水を集めた清流が崖線の緑とともに散策路となっています。春から夏に涼を求めて水辺散策を楽しんでみてはいかがでしょうか。

縄文のみち

この観察路は、本門寺公園、池上本門寺社寺林、池上梅園をめぐる数多くの坂のある散策路です。この地域の歴史は古く、縄文時代から弥生時代の貝塚、住居跡、古墳時代の横穴古墳などの遺跡が見られます。急な崖線と寺院、墓地などが広い面積を占めていたために自然に近い森が残されており、この夏は木陰で“蝉しぐれ”に涼を求めてみるのもよいでしょう。セミの羽化にも出会えるチャンスの多い場所です。

川と干潟のみち

この観察路は、多摩川の六郷橋から下流域にあり、広い河川敷と広範囲のアシ原が特徴で、東京湾の潮汐の影響によってできた河口干潟が発達しています。干潟には貝やカニなどの底生生物が豊富に生息し、夏になると泥だらけになってカニをとる親子の姿なども見られるようになりました。高度成長期に汚れてしまった多摩川の自然が回復した姿を、直接足を運んでご自身の目で確かめてみてください。

色とりどり、花も虫も野鳥も

春の訪れは、人ばかりではなく、自然も喜んでいるように感じませんか。多摩川の土手に咲くオオイヌノフグリのような小さな青い花から濃いピンクの桜並木、そして夏には庭先の黄色いヒマワリ。その花々のまわりには、同じように色鮮やかなチョウが飛び交っています。水辺ではカルガモ、コサギ、カワウ、カワセミなどが採餌に夢中です。樹林ではシジュウカラやメジロ、ムクドリ、ヒヨドリ、ツミなど多くの野鳥が子育ての季節を迎えています。